

西園寺文庫所蔵『薫集類抄』翻刻と校異（上）

田 中 圭 子

序

平成二年、立命館大学図書館西園寺文庫の目録が完成し、同文庫の全容が明らかにされた。西園寺家伝来の書をはじめとする図書や資料から成るこの文庫には、世に知られることの無かった貴重な古典籍が数多く収蔵される。薫物指南書『薫集類抄』の江戸期写本もその一つである。

『薫集類抄』は、平安初期から中期にかけ、我が国貴族社会で用いられた様々な薫物の処方について、編年体で記された、我が国に現存する最古の薫物指南書である。「寂蓮自筆本」なる伝本が存在したことを受け、寂蓮法師編纂の書とする解題や目録も一部見られるが、上下巻奥書に「刑部卿範兼卿奉 勅抄集之也」とあることから、一般的には藤原範兼が編者と考えられている。^(注1)

本書は、香道の故実研究だけでなく、『源氏物語』をはじめとした平安文学研究に資するところも少なくないが、伝本や本文に関する体系的な研究が成されたことは一度も無かった。本稿は、新出資料であり、後述のように、四天王寺国際仏教大学旧恩頼堂本を除く現存諸本中、二番目に古い写本と考えられる西園寺文庫本の翻刻を試みるとともに、現在までに調査してきた他の六本の写本との校合から確認された異文を脚注として示すものである。

なお、本研究は、続稿を含めた二編から成り、本稿では諸伝本の概要と上巻の本文について、続稿では下巻本文と西園寺文庫本の詳細、並びに諸伝本の系統について発表する。

平成一五年公開の四天王寺国際仏教大学旧恩頼堂本上巻との校合結果は、続稿で併せて紹介する。

一 『薰集類抄』諸伝本の概要

本稿でとりあげる立命館大学図書館西園寺文庫の江戸期写本一点を加えると、現存する『薰集類抄』伝本は以下の八本に上る。

写本

- ① 杏雨書屋鎌倉期写本
- ② 四天王寺国際仏教大学旧恩頼堂本
- ③ 鶴舞中央図書館河村文庫本
- ④ 関西大学図書館岩崎美隆文庫本
- ⑤ 杏雨書屋江戸期写本
- ⑥ 神宮文庫本
- ⑦ 立命館大学西園寺文庫本
刊本
- ⑧ 群書類従（正編）本

⑧の群書類従(正編)本に⑥の神宮文庫本を校合して成る新校群書類従本について、大正四年と昭和三七年に著された二種の解題は、異本の存在を否定していたが、右八本の形態的な特徴や本文の異同、書写者識語の内容等を比較した結果、以下の三類に大別することができる。

上巻から日本の薫物のみを抄出し、他本の載せない新しい時代の薫物の処方、解説的な頭書を加えた①(一類本)、『寂蓮法師自筆本』(以下「寂蓮本」)を祖とする②③④⑤⑧(二類本)、裏書記事の伝わらない⑥⑦(三類本)である。

一 一類本

①杏雨書屋鎌倉期写本(以下「古鈔本」)には、薫物調査に関する経験的な事柄の書き入れが多く、薫物に浅からぬ見識を持つ人物によって書き継がれた伝本と考えられる。本文には、本伝本独自の異文のほか、寂蓮本を祖とする二類本に共通の本文と対立する異文とを確認できる。前者の異文が解説的な性格に由来するとすれば、後者は寂蓮本に近い本文を持った伝本を祖とし、そこから成ったことに因るものである。他本では巻末に一括され、本文のどの部分を対象とするものが不明な裏書記事が、本文のしかるべき所に書き込まれており、もとは卷子本であったと想定される本書の裏書勘物を本文化する上で参考となる。

一 二類本

安永八年(一七七九)→文政二年(一八一九)、群書類従正編の一部として作成された⑧群書類従(正編)本(以下「版本」)は、寂蓮本を底本とする明暦二年(一六五六)書写本(未詳)を底本とし、多紀安元(元徳)法印蔵本(未詳)と校合して作成された。現存未詳の寂蓮本は、③鶴舞中央図書館河村文庫本(以下「河村文庫本」)巻末の書

写者識語に「伏見宮家御蔵本」と伝えられる。河村文庫本は、尾張の国学者河村益根が寛政五年（一七九四）に書写を終えた伝本であり、書写年時「延享二年（一七四五）九月日」、書写者「清茂」と記される伝本を底本として用いたという。「清茂」は伏見宮邦永親王との親交浅からぬ岡本清茂を指すと考えられるので、真偽は別として、寂蓮本と伝えられるものが伏見宮家に存在した可能性は高い。

④の岩崎美隆文庫本、⑤の杏雨書屋江戸期写本の巻末には、河村文庫本と同じ「延享二年九月日」という記述のほか、「瀧口の侍坂室左衛門」（伝未詳）の手による寂蓮本の転写本を祖とすることが記されている。なお、②の四天王寺国際仏教大学旧恩頼堂本については、平成一五年度の一般公開以後に調査を試みる予定であるが、手元の情報によると「寂蓮本系統」で「延宝二年（一六七四）書写了」、^{（注6）}「園林堂旧蔵」とされ、二類本中現存最古の写本に位置づけられる。

一 1 3 三類本

⑥の神宮文庫本（以下「神宮本」）は、天明四年（一七八四）、村井古巖が神宮文庫の前身である林崎文庫に奉納した、書物二千部（一説に三七〇七部）中の一部である。書写者、書写年時未詳。著書「二上峰」で、古巖と懇意にしていたことの知られる伊勢貞丈との関連を思わせる「貞丈案」云々の書き入れ、^{（注7）}並びに各種本草書からの引用が多数存する。また、版本は寂蓮本を底本とするが、異同に関して同じ寂蓮本系統の写本と共通することは希であるのに対し、神宮本の傍注と一致する場合が多い。このことから、本草書の引用といい、神宮本は現存未詳の多紀安元法印所蔵本と何らかの関係を持つことが想像される。

⑦の西園寺文庫本は、立命館大学図書館作成の目録によれば書写者、書写年時ともに未詳、一八世紀の伝本と報告

されているが、蔵書印を参考にすると、一七世紀後半まで遡ることができる。現在の所蔵先である立命館大学図書館と西園寺文庫の蔵書印各一顆の他、不鮮明な蔵書印二顆、計四顆の蔵書印が認められる。後者の二顆は鮮明な状態で同文庫の『古今香之札』中にも存し、それぞれ「藤原」「實輔」と刻まれる。これらの蔵書印の主は西園寺家二五代実輔である。本書は天和二年（一六八二）一月三〇日から貞享二年（一六八五）正月五日の間に西園寺家に収蔵され、以来同家に伝来した。②を除く現存諸本中で古鈔本に次ぐ古い写本に位置する。

実輔は、元は関白鷹司房輔二男で兼敦と云い、後に西園寺家へ迎えられ家督を嗣いだ。実輔と改名したのは兼敦二二歳の天和二年一月三〇日、この時権中納言従三位、翌三年正三位に昇るが、二年後の貞享二年正月五日、二五歳で薨じた（『公卿補任』『系図纂要』参照）。

〈注〉

〔注1〕 新校群書類従本解題（『新校群書類従解題集』所収）（昭四）、『市立名古屋図書館別置図書目録』（昭四八）、『杏雨書屋蔵書目録』（昭五七）参照

〔注2〕 『神宮文庫図書目録』（大一一）、『群書解題』（昭三七）、『関西大学所蔵岩崎美隆文庫五弓雪窓文庫目録』（昭五二）、『国書総目録 補訂版』（平一一三）、『典籍総目録』（平二）、『立命館大学図書館蔵西園寺文庫目録』（平二）参照

〔注3〕 新校群書類従本解題（『新校群書類従解題集』所収）（昭四）、『群書解題』（昭三七）

〔注4〕 次の頭書には、「承和秘方」という萬物の香りの善し悪しとその要因についての考えが記されている。

元弘二年三月十七日合之其香尤臭譬香似過（『承和秘方』の上欄 三三丁ウ 本稿脚注164参照）

〔注5〕 按原本巻物ニテ表裏ニ書テアリシナルヘシ（神宮文庫本上巻末 本稿脚注264参照）

〔注6〕 国文学研究資料館データベース参照

〔注7〕 次の頭書には、「ひちくる」という語句の用法や意味等についての「貞丈」の考えが記されている。

貞丈按宇治大納言物語にいまひとつのものはとらうをたきものあまづらなとにひちくりてかきあはせて云々古哥に袖ひちてトよめりひちハひたす也ひちぐりと云ハ香乃具を蜜や甘葛などに浸ス也ひちハひたすにてくりと云ハ詞の助なるへし下巻にも亦こともものともあまつらにひちくりて云々(傍注略 本稿脚注149参照)

(注8) 新校群書類従所収本解題『新校群書類従解題集』所収(昭四)、『群書解題』(昭三七)

二 西園寺文庫本 本文と校異

凡 例

1 本文

一、立命館大学図書館西園寺文庫本「薰集類抄」上巻を底本とした。

一、底本の誤脱、誤写と見受けられる箇所については原本のまま記し、他本の本文を脚注に示した。

一、歴史的仮名遣いに一致しない箇所、各種記号や符号の類も、底本のままに記した。

一、異体字は、原則として通行の字体に改めた。また、ある語句に用いる漢字について、字体の統一が成されていない場合は、最も通字に近いものに統一した。例外も存する。

1 「占唐」「侍従」「条」に関しては、底本にある表記のままに記した。

2 本文に符号或いは見せ消ちと認められる上書、あるいは傍注として異文等の書き入れが残されている箇所については、底本の字体を改めなかった。

3 虫損により翻字が困難な場合、その箇所を空欄とした上で囲んだ（□）。

2 脚注

一、諸本の間に存する異文や書き入れを集成、記載した。

一、頭注などにより原文の字体に注意が及び、或いは校訂者が注意すべきと判断した箇所については、表記のままに記し、続けて丸括弧内に通行の字体を記した。

一、底本「小」に対し「少」、「已上」に対し「以上」といった、同義語による使用漢字の相違に関しては、頭書や傍注の見られる場合に限り、脚注作成の対象とした。

一、各種符号や句読点については、その有無がいずれかの伝本で注記の対象とされている場合に限り、諸本の相違点を集成した。

一、脚注での諸本の略称は次の通り。

〔古〕 杏雨書屋鎌倉期写本

〔神〕 神宮文庫本

〔羣〕 群書類従（正編）本

〔鶴〕 鶴舞中央図書館河村文庫本

〔岩〕 関西大学図書館岩崎美隆文庫本

〔杏〕 杏雨書屋江戸期写本

1 (外題)
薰集類抄 全

(表紙見返は白紙、一、二丁は遊紙、二丁裏側に立命館大学図書館蔵書印二顆有り)

2
薰集類抄

諸方 傳方之人依時代立次第

梅花

侍從

3 落葉

坎方

増損化度寺

承和

百歩香

6 令人體香

落梅公主

潤面膏

建醫師衣香

焼香

供養香

觀世音菩薩留濕香

荷葉

菊花

黒方

薰衣香

4

付洛陽薰衣香
會昌薰衣香

増損薰衣香

5 裏衣香

付化度寺百和香

百和香

浴湯香

丹陽公主

甲煎

香粉

7 印香

金剛頂經香



(3 ウ)

(3 オ) (表紙)

1 薰集類抄 全

神 薰集類抄

古 薰集類抄上

鶴 薰集類抄上

岩 羣 (外題無し)

2 薰集類抄

神 薰集類抄上

古 羣 薰集類抄上

杏 羣 薰集類抄上

3 鶴 頭書有り (益根按宗洪蜀 (改行) 香譜
有唐化度 (改行) 寺牙香法)

4 付洛陽薰衣香

會昌薰衣香

増損薰衣香

付洛陽薰衣香

杏 羣 増損ノノノ

5 裏衣香

神 裏衣香 羣 裏衣香

6 古 目次に「令人體香」以降無し

7 印 (印)

神 印 古 (欠)

鶴 印 杏 羣 印

梅花 擬梅花之香也春尤可用之

閑院左大臣 冬副⁸ 贈太政大臣正一位
右大臣内磨⁹三男

沈八両二分 占唐一分三朱

甘松一分 白檀二分三朱

麝香二分 薰陸二分

賀陽宮 名賀陽 二品治部卿
桓武天皇第七親王

沈八両二分 藤¹²陶一両三朱

甘松一分 白檀二分三朱

麝香一分 薰陸一分

滋宰相 滋野貞主參議宮内卿正四下
尾張守家譯子

沈八両二分 占唐一分三朱

甘松一分 白檀二分三朱

麝香二分 已上¹⁷小十五両三朱

沈四両一分 占唐四朱餘

甘松三朱 白檀一分一朱餘

麝香一分 薰陸三朱 已上¹⁸小八両

沈二両二分二朱 占唐三朱 甲香一両二分三朱

甘松二朱 白檀五朱 丁子三分二朱

（ 4 才 ）

（ 4 ウ ）

（ 5 才 ）

8 副

神^副 古^杏岩^羣 嗣
嗣（元の字を打ち消すべく太字）

9 磨

古^杏岩^磨

10 神

右に傍注「倉糖也占糖借音也以下皆同之」

11 神^羣 一分

12 磨^{倉糖也}

神^磨 古^磨 唐^磨

岩^磨 磨^磨 磨^磨

13 正四下

神^{正四下} 古^杏岩^羣 正四位下

14 古

ここに裏書の書き込み有り（内容と他書本文との異同については別稿にて触れる）

15 寸 古^鶴杏^岩可

16 「或二分」無し

古^鶴杏^岩 有

17 小

古^杏岩^小

18 古^十

麝香四朱

薰陸二朱 已上小五兩一分四朱

四條大納言

源定 正二位大納言左近大將
嵯峨天皇源氏

沈八兩二分

甲香三兩二分^{三¹⁰}

甘松一分五

白檀二分三朱^四

丁子二兩二分

麝香二分

薰陸一分^六

沈四兩一分

甲香一兩三分

甘松三朱

白檀一分一朱

丁子一兩一分

麝香一分

薰陸三朱

合八兩一朱

八條宮

本康 一品式部卿
仁明天皇第五親王

母從四位上滋野繩子

貞主女也

沈八兩二分

麝唐一分三朱

甲香三兩二分

甘松一分

白檀二分三朱

丁子二兩三分

麝香二分

薰陸一分

小野宮

惟喬²⁰
文德天皇第一親王

沈八兩二分

占唐一分三朱

甲香三兩一分

甘松一分

白檀二分三朱

麝香一分

丁子三兩二分²¹

薰陸一分小定

染殿宮

貞保 二品式部卿
清和天皇第四親王

沈八兩二分

丁子二兩二分

²²香歟
甲子三兩二分

占唐一分三朱

白檀二分三朱

甘松一分

薰陸一分

麝香一分

或者諸香合薰之後可和庸
也此說可秘云、²³²⁴

(6 ウ)

(6 才)

(5 ウ)

19

「三」有り
杏岩 無し

20

惟喬

神羣

惟高

古鶴

杏

惟高

(喬)

21

三

神

三

古鶴

杏

岩羣二

22

甲子^{香歟}

古

甲子

杏

羣

甲香

23

可

鶴

寸

24

庸

古

鶴

杏

岩

麝

右大辦公忠

從四位下 大藏卿紀男仁和源氏也
母典滋野直子也仍傳之

沈八兩或八兩二分

占唐一分三朱

甲香二兩二分

或三兩一分

甘松一分

白檀二分三朱

丁子二兩二分

麝香二分

薰陸一分

²⁷

沈四兩一分

占唐四朱半

甲香一兩三朱

甘松三朱

白檀一分一朱半

丁子一兩一分

麝香一分

薰陸三朱已上小定

²⁸ 占唐代入麝香案之麝香本自在合種之中

中而其代入之者又可加增麝香分歟

大和常生³⁰ 延喜御時藏小舍人也

沈四兩一分

丁子一兩一分三朱

占唐四朱半

甲香一兩一分

甘松三朱

白檀一分一朱半

麝香一分

薰陸三朱

八条大將藤原保忠 大納言正三位右近衛大將兼陸奥出羽按察使
左大臣時平一男母本康親王女從四位上廉子女王

沈四兩二分

麝香二分四朱

甲香三兩

丁子三兩

薰陸一兩

白檀三分

大定

沈四兩三分

甲香三兩

丁子三兩

薰陸一兩

白檀三兩³¹

麝香二分四朱

³² 右皆半分造合足一臈法也而此數半臈合³³
³⁴之中入青木香此合物不入之

(8 オ)

(7 ウ)

(7 オ)

25 母鶴女

26 「侍」無し

侍數下文アリ
神無し (典〇……)

古鶴香岩羣有り

27 古 頭書有り (此元弘二年三月合也
占唐代加麝香尤芬芳)

28 香岩 ここに左記の書込有り

占唐代入麝香案之麝香本自在合種之中而
其代入之者又可加增麝香分、歟

占唐代入麝香案之麝香本自在合種之中而
其代入之者、又可加增麝香分、歟

岩 占唐代入麝香案之麝香本自在合種之中而
其代入之者、又可加增麝香分、歟

29 合種之中

神古羣合種中

30 生 神 ふりがな有り (生)

31 三 羣二

32 足 神足羣是

33 臈 神臈羣劑

34 臈 神臈羣劑 (頭書に「劑」)

| | | | |
|--|----------------------------------|----------------------|--|
| 東三條院 ³⁵ | | 詮子 圓融院女御 一条院母后 | |
| 入道前太政大臣兼一女 ³⁶ | | | |
| 沈八両二分 | 占唐一分三朱 | 甲香三両二分 | |
| 甘松一分 | 白檀二分三朱 | 丁子二両二分 | |
| 麝香二分 | 薰陸一分 | | |
| 沈四両一分 | 占唐四朱半 | 甲香一両三分 | |
| 麝香一分 | 薰陸三朱 小定 | | |
| 小一條皇后 | 城子 ³⁹ 三條院女御 小一条大將濟時一女 | | |
| 大納言公住同用之 ⁴⁰ | | | |
| 沈八両二分 | 占唐一分三朱 | 甲香三両二分 | |
| 甘松一分 | 白檀二分三朱 | 丁子二両二分 | |
| 薰陸一分 | 麝香二分 已上小十六両一分大五両二分 | | |
| 沈四両一分 | 占唐四朱餘 | 甲香一両三分 ⁴¹ | |
| 甘松三朱 小輕 ⁴² | 白檀一分一朱餘 | 丁子一両一分 | |
| 麝香一分 | 薰陸三朱 已上小八両 | 甲香一両二分 | |
| 沈二両二分一朱 | 占唐三朱 | 丁子三分二朱 | |
| 甘松二朱 | 白檀五朱 | | |
| 麝香四朱 | 薰陸一朱 已上小五両一分四朱 | | |
| 小一條院 謙教明 ⁴⁴ 三條院太子 母皇后城子 ⁴⁵ | | | |
| 沈八両二分 | 占唐一分三朱 | 甲香三両一分 | |
| 甘松一分 | 白檀二分三朱 | 丁子二両二分 | |
| 麝香二分 | 薰陸一分 ⁴⁶ | | |

(9 ウ)

(9 オ)

(8 ウ)

- 35 東三條院 羣 東條條院
- 36 前 岩 ○ 前
- 37 兼一 古 兼家
- 38 古 鶴 杏 岩 ここに「甘松三朱 白檀二分一朱半丁子一両一分」有り 羣 有り (行間に挟み込まれた印象)
- 39 城子 古 杏 岩 城子 鶴 城子
- 40 住 神 古 鶴 杏 岩 羣 任
- 41 古 鶴 杏 岩 ここに「三朱 減すへし」有り
- 42 古 頭書有り (元弘二年三月合之此方聊劣於公忠之方 占唐近日不見仍不入也若其似歟)
- 43 「已上小八両」有り 神 無し
- 44 古 ここに裏書の書込有り (裏書の内容、異同等については別紙にて紹介の予定)
- 45 謙 古 鶴 杏 岩 羣 諱
- 46 一 杏 岩 二

件方承保三年三月晦日典藥頭雅忠朝臣
注送之父忠覺入道於小一條院所寫取也
即忠覺自筆也

山田尼 小一條皇后侍女 山田中務後拾遺作者
因轉權守致貞女

沈八兩二分 丁子三兩三分

甲香三分 甘松一分

麝香二分 薰陸一分

尼云梅花にハ薰陸者兩數すこしたらさ
ていへし⁴⁸

沈二兩四朱 甘松二朱

白檀二朱 丁子二分四朱

いまふたくさの香いるなれと名たし
かにしらす⁵²

⁵³二條關白 教通 關白太政大臣從一位道一公三男

沈八兩二分 占唐一分三朱

甘松一分 白檀二分三朱

麝香二分 薰陸一分

治曆四年四月六日被合梅花一臈⁵⁶ 香十五

兩二分三朱甘葛合定十六兩一分三朱

堀川右大臣 頼宗 從一位右大臣 道一公三男

占唐一分三朱
白檀三分

甲香二分二朱

麝香四朱

甲香二兩二分⁵⁵
丁子二兩二分

（10ウ）

（10オ）

47 たらさて 神 たらさて^{不足}

48 いへし 神^{る数} い〇へし 古鶴羣 いるへし

49 ふたくさ 神^{ふたくさ} ふたくさ^種

50 いる 神^入 いる

51 なれと 神 なれど 古 なれとも

52 しらす 神 しらす

53 二鶴 三

54 道一 古 道長

55 二 古鶴 杏 岩一

56 臈 神 臈 羣 劑

57 大 岩 大

58 二分三朱 鶴 三分二朱

59 甘葛 神 ふりがな有り （甘葛）^{アツツ}

60 道一 古 道長

61 沈八両

甘松一分

薰陸二分

62 占唐

白檀二分

丁子二両二分

甲香二両二分

麝香二分

参議師成 從二位 小一條大將濟時孫 中納言通佐男

沈香八両二分

或本二分可用心

占唐一分三朱

甲香三両

甘松一分

白檀二分三朱

丁子二両二分

麝香二分

薰陸一分 已上小十五両三分

沈香四両一分

占唐四朱餘

甲香一両一分三朱

甘松三朱

白檀一分一朱餘

丁子一両二分

麝香一分

薰陸三朱 已上小八両

或説

甘松香花一分

沈七両三分

麝香一分四朱

白檀一分三朱⁶⁵

熟麝金三分

安息二両一分

不知誰人

沈八両

麝陶一分

甲香三両二分⁶⁶

甘松二分

麝香二分

薰陸二分

丁子二両二分

甘松一分

沈七両二分

甲香二両二分

白檀一朱

丁子二両二分

麝香四朱

麝金一分

荷葉 擬荷香也 夏月殊施芬芳

(12才)

(11ウ)

(11才)

61 「沈、占唐、甲香、甘松」の順

占唐 「甲香、甘松、沈、占唐」の順

62 占唐 占唐 本ニ量ナシ

63 分 占 両

64 小 占 十

65 占 鶴 杏 岩 ここに「若二分」有り

66 二 神 占 鶴 杏 岩 二 羣 三

公忠朝臣 天曆六年二月廿一日甲午進之⁶⁷

甘松花一分

沈七兩二分

甲香二兩二分⁶⁸

白檀二朱 或三朱⁶⁹

熟爵金二分

薑香四朱

丁子二兩二分

安息一分 或無^{代麝香}

甘松三朱

沈三兩二分⁷⁰

甲香一兩一分

白檀一朱 或本無⁷¹

熟爵金一分

薑香二朱

丁子一兩一分

山田尼

はちすの花のかとそいふなる一臍を
みつにワかちてあわする⁷²

沈二兩四朱

甘松二朱

甲香三分二朱

白檀二朱⁷⁴

丁子二分四朱

麝香四朱

いまふたくさの香いるなれとなたしか
にしらす⁷⁵

或説

甘松香花一分

沈七兩二分

薑香一分四朱

白檀一分三朱⁸⁰

熟爵金二分

安息二兩一分

不知誰人

甘松一分

沈七兩二分

甲香二兩二分

白檀二朱 或三^{朱若二}

丁子二兩二分⁸¹

薑香一分四朱

熟爵金二分

安息一分

（12ウ）

（13オ）

（13ウ）

67 天曆 或慶
[古] 鶴岩

68 [古] 鶴岩 ここに「或一分」有り

69 或三朱 或本三朱
[羣]

70 二分 [古] 三分 [羣] 二朱

71 [古] 頭書有り（元弘二年三月合之殊香爵金代麝香）

72 あわする は歟

[神] あわする [古] 杏 あはする

73 二 [羣] 八 あはする [岩] あはする

74 [古] 鶴 杏 岩 ここに「すこしたらて」有り

75 ふたくさ [神] 二種 ふたくさ

76 いる [神] 入 いる

77 なれと [神] なれど [古] なれとも

78 な [神] 名 な [古] なも

79 す [鶴] 岩 ぬ

80 一分三朱

[古] 一分二朱 若三分

[鶴] 一分二朱 朱若二

[杏] 岩 一分三朱 若二分

81 二 [鶴] 三

侍從 亦名拾遺 補闕⁸²

秋風蕭颯として心にくきおりによそへ⁸³
たるへし

閑院大臣

沈四両

甘松一両

丁子二両

熟麝金一両 已上小

甲香一両 已上大

賀陽宮 或號院可尋之

沈四両

甘松一分

丁子二両

麝金⁸⁴一分

甲香一両

滋宰相 小一条皇后方同之
又入道一品宮女房陸奥方同之

沈四両二分

丁子二両二分

甲香一両二分 已上大

熟麝金一両

甘松一両 已上小⁸⁶

或加占唐大一分又說停麝金加麝香小二分 廿七両二分

又或用黃麝金

沈六両三分 或小六両

丁子三両三分 或小三分

甲香二両二分

或小二両二分

麝金二分

甘松二分

若加占唐一分三朱 或小三朱

若用麝香一分

縦雖頗減不可過入之

(15才)

(14ウ)

(14才)

82 亦

神 亦
又ナルヘシ

83 へ 古 (無し)

84 一 鶴 二

85 古
ここに裏書の書込有り(裏書の内容、異同等については別紙にて紹介の予定)

86 小 羣 (無し)

| | | |
|--------------------|-----------|------------------------|
| 八條宮 | | |
| 沈四兩 | 丁子二兩 | 甲香二兩 |
| 甘松一分二朱 | | |
| ⁸⁷ 沈四兩 | 丁子二兩 | 甲香一兩 已上大 |
| 甘松一兩 | 熟鬱金一兩 已上小 | |
| 一説入麝香一説黃鬱金 或加占唐小一分 | | |
| 合六種而此本無之和蜜合搗三千許杵 | | |
| 此二方者不傳男是承和仰事也延喜六年 | | |
| 二月三日典侍滋野直子朝臣所獻也 | | |
| 沈四兩 | 丁子二兩 | 甲香一兩 已上大 |
| 甘松一兩 | 熟鬱金五兩 | 占唐一分 已上小 ⁸⁹ |
| 沈六兩 ⁹⁰ | 丁子三兩 | 甲香一兩二分 |
| 甘松二分 | 鬱金二分 | 占唐三朱 已上小 |
| 小野宮 | | |
| 沈四兩二分 | 丁子二兩二分 | 甲香一兩二分 已上大 |
| 熟鬱金一兩 | 甘松一兩 已上小 | |
| 染殿宮 | | |
| 沈四兩大 | 丁子二兩 | 甲香一兩 |
| 甘松一分二朱 | 麝香三朱 | 占唐一分 |

（16ウ）

（16オ）

（15ウ）

| | | |
|---------------|------|---|
| 90 六 | | 87 古 「元弘元年十月十三日合之尤芬芳不入鬱金合麝香□此方先年合之亦□兩度殊香可極上方也」の頭書有り |
| 鶴 小六 | 古 小六 | |
| 89 「小」有り 鶴 無し | | 88 杵許 杏 杵許、 |
| | | |

或諸香合蜜之後可和麝也 此說可秘

公忠朝臣

沈六兩

丁子三兩

甲香一兩二分

甘松二分

熟麝金二分

占唐三朱 皆小

大和常生

沈四兩

丁子二兩

甲香二兩 或本一兩

麝金二分

若無以麝代之

甘松二分一朱

已上小

沈四兩

丁子二兩

甲香二分

甘松二朱

麝香二朱

右二方是藏人所小舍人大和常生之秘方也

件常生延喜聖代與公忠朝臣同時相並事⁹²

合香之事者也

八條大將 宇治關自用此方

沈四兩一分 或二分

丁子二兩二分

甲香二兩 已上大

甘松一兩

熟麝金一兩 已上小

大將者八条式部卿親王之孫也然則傳來方

可同承和方而有相誤甚可疑之

朱雀院 東三条院用之

(17ウ)

(17オ)

91

甲香二兩 或本一兩 古 (次行「麝金云々」の右側に小文字で補入)

92

神 ここに左記の朱筆有り
相並事^ナ合香之事^{トスル}者也^{アリ}

93

事 古 鶴 杏 岩 羣 奉

94

一分 或二分 鶴 二分 或二分

95

可 杏 可 岩 廿 (頭書「可」)

96

可 鶴 可 岩 可 (頭書「可」)

沈四兩 丁子二兩 甲香一兩

甘松一分三朱 麝97一分三朱 已上小

⁹⁸右方自天曆御時所令傳給也取煎蜜微火

以春篩占唐人蜜且煎且攪99攪合100之後入諸

搗香以匙調和先以目下計搗香程調占

唐之蜜101程多於香少於香尤為拙102以能

均成爲巧合了搗三千六百杵畢取出作丸

斤量之後入瓷壺埋水邊得陽氣之地

藤原致忠 從四位上右馬頭 大納言元方男

沈四兩二分 丁子二兩二分 甲香二兩

麝香一分 甘松一兩

藤原保昌 正四位下攝津守 致忠男

沈四兩 丁子二兩 甲香一兩 已上大

甘松一兩 麝金一兩 占唐一分 已上小

右方父子相連如何

小一條院

沈四兩二分 丁子二兩二分 甲香一兩二分 已上大

熟麝金二兩 甘松一兩 已上小

（19才）

（18ウ）

（18才）

97 小 鶴（無し）

98 岩 ここに頭書「砂」有り

99 攪 攪（頭書「攪」）

100 古 鶴 杏 岩 ここに「了」有り

101 拙 岩 拌（頭書「拙」）

102 下 鶴（無し）

103 父子 羣 父字

104 連 神 連違 古 鶴 杏 岩 違

105 二 鶴 一

106 二 羣 三

右方雅忠朝臣注送之委見梅花方

山田尼

沈四両

丁子¹⁰⁷二両

甲香一両

熟麝金一分一朱

若無入甘松一分二朱

二條關白

沈四両

丁子二両

甲香一両 已上大

甘松一両

治暦四年四月六日被合侍從一臈¹⁰⁸小香七両¹⁰⁹

二分四朱

堀川右大臣

沈四両

丁子二両

甲香一両

甘松一分

此方殊芳若有秘說歟不注大小両不審

参議師成

沈四両二分

丁子二両二分

甲香二両二分 已上大¹¹⁰

熟麝金一両

甘松一両 以上小 大九両四朱

或說占唐大一分又說麝金を停て麝香を

小二分加或黃麝金を用云々

(20オ)

(19ウ)

107 二両 杏 二両三分

108 臈 神 臈^製 翠 濟
109 香 杏 岩 香^〇

110 已上大 鶴 杏 岩 (無し)

菊花 ¹¹¹ 菊香に、たるにほひにやあらん
不知誰人

沈四両 丁子二両 甲香一兩二分

薰陸一分 麝香二分 甘松一分

¹¹² 清模公云菊花方者長生久視之香也聞之
薰之者却老增壽枇杷左大臣習傳之亭子
院前栽合左方用菊花方右方用落葉方云
云我好此方常用之但麝香一分可令加進
之菊花盛開其香分馥時析花置傍和合
之或人云舊干菊花一兩許加之云、水邊
菊下埋之經二七日許 ^{入瓷瓶 堅封口} 取出又經二七日
許用之若有急用者不用此說而已

落葉 ¹¹³

不知誰人

沈四両 丁子二両 甲香一兩二分

薰陸一分 麝香二分 甘松一分

¹¹⁴ 黒方 ¹¹⁵ 又薰衣香此說誤歟
冬凍氷時深有其匂不被封塞 ¹¹⁷

閑院大臣 長良 清經 元名等同之

(21ウ)

(21オ)

(20ウ)

¹¹¹ 香 ^羣 花
¹¹² 古 ^羣 ここに左記「時經」方在り
時經

・沈二両 丁子一両
貝三分 薰陸三朱

甘松三朱 麝香一分

¹¹³ 古 ^羣 香 ^羣 ここに「秋のゆふくれしく
れするほともみちのちりなとするとき心すこ
きにやあらん」有り

¹¹⁴ 古 ^羣 ここに左記「時經」方有り
時經

・沈四両二分 丁子二両
貝三両 麝香一分
白檀四朱 かうふし二分三朱
薰陸三朱 そかう二分

¹¹⁵ 或鳥 ^{或鳥}

神 クロバウ 古 ^羣 或鳥

或ぬ 香 ^羣 (傍注無し)

¹¹⁶ 岩 頭書「得」「致」

¹¹⁷ 封

杏 封耐 岩 決 ^〇 封耐 (頭書「封耐」)

| | | |
|---|----------------------------------|----------------------------|
| 沈四両 | 丁子二両 | 白檀一分 |
| 甲香一両二分 | 麝香二分 | 薰陸一分 已上大 ¹¹⁸ |
| 賀陽宮 | | |
| 沈四両 | 丁子二両 | 白檀一分 |
| 甲香一両 | 麝香一分 | 薰陸一分 |
| 滋宰相 ¹²² | 小一条皇后與此方無相連公住御同用之 ¹¹⁸ | |
| 小一条院方又同之入道一品宮女房陸奥方同之參議師成又同 ¹²³ | | |
| 沈四両 | 丁子二両 | 甲香一両 或二分 ¹²⁴ |
| 薰陸一分 或二分 | 白檀一分 或二分 | 麝香二分 已上大八兩 ¹²⁵ |
| 沈六両 | 丁子三両 | 甲香二両 一分 |
| 薰陸一分三分 ¹²⁶ | 白檀一分二分 | 麝香三分 已上小十二兩 ¹²⁹ |
| 沈四両 | 丁子二両 | 甲香一両二分 |
| 薰陸一分 | 白檀一分 | 麝香二分 已上小八兩二分 |
| 四條大納言 源 小野宮同之 染殿宮又同之 | | |
| 沈四両 | 丁子二両 | 甲香一両二分 |
| 白檀一分 | 薰陸一分 | 麝香一分 |
| 八條宮 | | |
| 沈四両 ¹³⁰ | 丁子二両 | 白檀一分 |
| 甲香一両二分 或大 一両 | 麝香一分 或一 兩 | 薰陸一分 已上大 |

(22ウ)

(22オ)

| | | | | | | | | | | | |
|-----------|------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|-----------|---------------------------------|--------------|--------------|-----------------------------------|-----------|-------------|----------------|
| 118 大 神 六 | 119 小一条皇后与 神 小一条皇后○与 ^{方款} | 120 連 神 連 古 羣 杏 岩 違 ^{違款} | 121 公住 神 公住 ^{任款} 古 鶴 岩 羣 公住 | 122 滋 鶴 源 | 123 小一条院方 神 小一条院○ ^{方款} | 124 又 神 又 亦款 | 125 又 神 又 亦款 | 126 或二分 神 (無し) 古 或二兩 ^分 | 127 大 鶴 右 | 128 三 古 鶴 二 | 129 十 杏 廿 岩 廿。 |
| | | | | | | | | | | | |

130

杏 岩

ここに左記の書き込み有り
 為相御自筆此於、合標アリ

或云至要方也延喜六年一月三日典侍滋野直子朝臣所献也

沈六両

丁子三両

白檀一分二朱

甲香一両一分

麝香三分

薰陸一分三朱已上小

沈八両

丁子三両

麝香三両

薰陸二両

白檀二両

甲香三両

蘇合二両 已上大

蜜五合

公忠朝臣

沈四両

丁子二両 少輕

甲香二分 少輕

薰陸一分 少輕

白檀一分 少輕

麝香二分

上品香等頗輕可用意之若例香如両數

大和常生

沈三両

丁子一両二分

甲香一両二分

白檀一分

薰陸一分

麝香二分

八條大將

沈四両二分

丁子二両二分

甲香二両二分

麝香二分

白檀二分

薰陸一分 已上大

¹³⁵ 可疑之由委見侍從

（24オ）

（23ウ）

（23オ）

131 直子朝臣 杏岩 チヨシノ 直子 朝臣

132 古鶴 杏岩 ここに「或本」有り

133 一 古鶴 杏岩 羣 三

134 已上大 神（無し）

135 可疑之由委見侍從 古（朱筆、小文字にて補入）

朱雀院 東三條院同之

沈四兩二分

薰陸一分

白檀一分

丁子二兩

甲香一分

麝香一分四朱

已上
小

藤原國轉 從五位下前出羽守

沈四兩

丁子二兩

甲香一兩二分

或大
二分

麝香二分

白檀二分

薰陸二分

已上大

沈四兩二分

丁子一兩二分

甲香一兩二分

已上
大

白檀一兩

薰陸二兩

麝香一分

大

大一兩三朱

大一分三朱

小一兩三朱
分三朱

大二分

大一朱半

小四朱半

右二方尤香云、六物各細搗以練飾之性¹³⁵陶

數斤定之後和合撥合五六十度許訖即合

篩二度亦推各分兩斤定了以蜜入土器中

堽埋炭火居其上微、煎之沫立之後以綿曳¹⁴⁰取沫以指深蜜非暖非寒¹⁴² 欲誤冷也 熱則失香 先以六種

香入大革宮蓋和蜜能黏合了入鐵臼搗

千杵取出入瓷蓋不至口八分許能封其口

掘窟中土二尺許埋之春夏三曰秋冬五日也

(25ウ)

(25オ)

(24ウ)

136 杏¹³⁶ 岩ここに左記の書き入れ有り
押紙 今之通用、一斤四拾目、一兩
拾目、一分或冬五分、一朱四分餘、137 縑 杏¹³⁷ 縑138 性 古¹³⁸ 縑 杏¹³⁸ 任 羣¹³⁸ 住139 和 羣¹³⁹ (無し)140 推 杏¹⁴⁰ 岩¹⁴⁰ 推。141 曳 岩¹⁴¹ 曳。(頭書「曳」)142 暖 岩¹⁴² 暖143 誤 杏¹⁴³ (無し) 岩¹⁴³ 誤。144 土 古¹⁴⁴ 鶴¹⁴⁴ 云

なりともくろほうをもちゐるへきなり

(26才)

觀教大僧都 延暦寺 公忠并息 三条院御持僧

沈四両

丁子二両

甲香三分

白檀三分

薰陸二分

麝香一分

藤原知章 正四位下春宮亮 関院贈太政大臣傳也分朱有後用心¹⁵⁷

沈四両

丁子二両

甲香一両二分

麝香二分

白檀二分

薰陸二分 已上夫

已上成粉員¹⁵⁸ 蜜三合許可入

藤原保昌

沈四両

丁子二両

白檀一分

甲香一両

麝香一分

薰陸一分 已上夫

沈六両

丁子三両

白檀一分二朱

甲香一両二分

麝香三分

薰陸一分 已上小

山田尼

沈四両

丁子二両

麝香二分

甲香一両二分

薰陸一分

白檀一分

尼のいはく、ろほうにハ麝香をす、めたる

いとかうはし¹⁵⁹

二條關白

(28才)

(27ウ)

(27才)

157 後

古¹⁵⁷ 欠¹⁵⁷ 鶴¹⁵⁷ 杏¹⁵⁷ (無し)

158 員 蜜

古¹⁵⁸ 欠¹⁵⁸ 杏¹⁵⁸ 岩¹⁵⁸ 員¹⁵⁸ 蜜¹⁵⁸ 員¹⁵⁸ 蜜¹⁵⁸

159 かうはし 羣¹⁵⁹ よし

(28ウ)

169 香八両 **杏岩**、一香八両
 168 白檀一分云々 有 **杏岩** 無し
 167 白檀一分云々 有 **杏岩** 無し
 166 白檀一分云々 有 **杏岩** 無し
 165 白檀一分云々 有 **杏岩** 無し
 164 白檀一分云々 有 **杏岩** 無し
 163 白檀一分云々 有 **杏岩** 無し
 162 白檀一分云々 有 **杏岩** 無し
 161 白檀一分云々 有 **杏岩** 無し
 160 白檀一分云々 有 **杏岩** 無し
 159 白檀一分云々 有 **杏岩** 無し

一

(29ウ)

| | | | | | | | | | |
|-----|-------|--------------------|---------|-------|-----------|----------|---|---|---|
| 182 | 久 | 神 | 抱 | 古 | 炬 | 杏 | 岩 | 羣 | 抱 |
| 181 | 袍 | 神 | | 古 | 炮 | 杏 | 岩 | 羣 | 抱 |
| 180 | 逆 | 鶴 | 通差 | | | | | | |
| 179 | 岩 | カチマチ 名 | (頭書「亦」) | 羣 | 亦 | | | | |
| 178 | 衣被 | 神 | 古 | 鶴 | 衣被香 | | | | |
| 177 | 到含十二丸 | 利含十二丸 ^ウ | 古 | 引含十二丸 | | | | | |
| 176 | 三日 | 羣 | 無し | | | | | | |
| 175 | 咽 | 神 | 咽 | 羣 | 咽 | | | | |
| 174 | 羣 | 棗核 | | | | | | | |
| 173 | 棗橡 | 棗橡 ^{枝袋} | (橡) | 岩 | ○ ○ 棗橡 | (頭書「棗橡」) | | | |
| 172 | 擣 | 神 | 羣 | 搗 | | | | | |
| 171 | 古 | ここに「公忠朝臣方歟」有り | | | | | | | |
| 170 | 亡(は) | 神 | 亡 | | | | | | |

- 唐僧長秀四作薰衣香用蜜和合是劣方也
作瓷盆但盆下若煙處
塗丹燒調穿其底重日五口許
其最上盆出小烟之孔穿五處以堦或時蓋
寒或時取去以薰爐居盆下割沈香燃之
其煙多着盆裏而或如露落爐邊其時止也
出爐而居外取盆以木倍良判取其脂入一
器之中取諸香任法春飾和件沈脂而盛
温器之內納量取之任用其香極芬芳也
洛陽薰衣香
出淨和院但公中朝臣所獻也
沈五兩 甲香二兩二分
白檀一分 已上大 麝香一分
蘇合一分 已上小 丁枝二兩 大
會昌薰衣香
隨時朝臣所獻也
沈三兩 大 丁子二兩 大
白檀一分四朱 小 青木香二分四朱 小
蘇合二分 小 麝香四朱 大
增損薰衣香 八条宮所上
沈三兩 甲香一兩二分
青木香二分 丁子一兩
白檀一分
占唐一分二朱

（31ウ）

（31オ）

- 188 劣 神奇款 劣 鶴 夕 香 當
189 坑 神 坑枕 羣 坑
190 割 杏 岩 刻
191 沉 古 鶴 杏 羣 沈 岩 作（頭書「沈」）
192 木倍良 羣 ふりがな有り（木倍良）
193 取諸香 岩取 沈香
194 沉（沈） 古 杏 岩 羣 沈 鶴 沈
195 古「前並」有り
196 古 頭書有り（元弘元年三月合之）
197 古「同並」有り
198 隨 古 鶴 隨 杏 隨 岩 隨
199 也 羣（無し）
200 古「同並」有り
- 183 蒜 神 蒜サシ
184 宰 神 宰辛 古 鶴 杏 岩 羣 辛
185 潔 潔 神 潔 羣 潔
186 互（兼） 神 兼款 王
187 亦 神 亦 鶴 本（互に亦を重ねる）

已上小

(33才)

11

甲香一分 蘇合二分 占唐二分
白檀二分 零陵一分 舊香三朱
甘松三朱 乳頭四朱半 白膠²⁰⁸二朱
麝香三朱 舊金二朱半 已上為試四分²⁰⁹
一所分出也
²¹⁰右十一種搗篩蜜和之於瓷器中盛埋經
三七日取燒百歩之外聞香
百和香
沈四兩 丁子二兩 甲香一兩 已上大
熟鬱金一兩 甘松二兩 已上少
寛平六年九月十日八条一品宮於御前寫
給百和香方也 六種黒方は誤歟
亦名侍從
²¹¹化慶寺百和香
沈六斤 代沈底 薰陸二斤 甲香七兩
香附子三兩 丁子二兩 零陵四兩
舊香二兩 艾納一兩 代青木香 舊香三兩
蘇合七兩 或三兩 蜜一斗 以上小斤 代白檀
右十種末之蜜去沫令冷淨澆和搗千杵蜜
封²¹²或作蜜用蠟²¹³ 七日後即成
蓋之彼是用之

（34ウ）

（34オ）

（33ウ）

208 膠（膠）
神 膠 杏岩 羣 膠
209 試
古 檀 鶴 減 杏 減 岩 試 減
210 右十一種搗篩蜜和之於瓷器中盛埋經三七
日取燒百歩之外聞香²¹¹有り
杏岩 無し
211 六 古 鶴 杏 岩 羣 亦
以下の記事欠、代わりに他本に無い
「會昌薰衣香方」「薰衣香方」「又方」
「元弘云々」（頭書）有り
元弘三年七月、せんかう大三 かいかう大二兩
少一兩合之 丁子大二兩 うこん四かん
其香尤勝 さかうをの（三朱 白し大一朱
勝日又合之 ちん大一二兩二分
殊極方也
天慶六年十一月十一日公忠朝臣所進
又のほうに
ちん二兩一分 丁子二兩一分
かい一兩一分 うこん三朱
白たう二分 そかう一兩三朱
せんたう一分 しやうくたき二分
そかう一兩までそりくたきてあハす
あまつらにあハすことせんすかうの二三みて
このほう少、世のさハかきころもち
ゐるにハなハたよし又これを多
くするにあしきかせていたつ時そ
もちるへき也
薰衣香方
沈香十五兩 甲香九兩
丁香三兩 白膠香二兩
蘇合二兩 舊唐香二兩
麝香二兩 舊金香三兩

令人脉香

甘草

松皮

已上分等末、服方寸匕三也、百日衣服甚

香

浴湯香

茵茴香一兩

零陵一兩

茅香一兩

甘松一兩

右以水作湯治之任意量多少以足為限

或本加澤蘭一兩

落梅公主潤面膏方

新雕經驗藥方云

酥 一斤貞者於銀器

內燒大並成油用

馬牙消 一兩

柳汁 少許

鵝梨汁 少許

梅鹽花 一兩研

右件藥與諸般都入酥內用東南嫩柳枝

子七莖長七寸用生緋線遂寸札將此枝子

早晨面白東吸罔氣噴在酥內將一莖枝

子右慢二十七轉其柳枝子頭微黃色用刀

子於線上截却如此法七莖柳枝子直候

使盡為度此膏以成用淨合子盛貯以代

面油使用

丹陽公主甲煎方

或蔡尼字歟

沈香六兩

丁香四兩

風香膏二兩

或本一見

瓜子

大棗

(36才)

(35ウ)

(35才)

右鼻搗如麻豆蜜和油袋盛瓷瓶中盛七日取用

又方

沈香九兩

白檀十二朱

甲香九兩

麝香十二朱

白膠香一兩

甘松香一兩

蘇合香一兩

薰陸半兩

目録度

非ナルヘシ

度

213 慶

214 艾

215 渡

216 蜴

217 蓋

218 低

219 粟

220 飡服

221 茵

222 治

223 或

古

古

古

古

或

或

或

或

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

青木香二兩 麝香一兩 淺香四兩
棗十枚 去皮 甲香三兩
割²³⁸ 玉抄云子臥反
去物芒角也
析微也
廣韻云破也
坩³⁰ 玉抄云口甘反
器名
建醫師衣香方 此方若薰衣香²⁴¹
沈香八兩 煎香七兩 白檀二兩
蘇香半兩 白膠半兩 麝糖一兩
甲香一兩 薰陸一分 麝香 一錢重
龍腦 一錢重 麝金 一錢重
香粉方 出極要方
白附子 伏苓 白朮
白芷 白欽 白檀
青木香 鷄舌 零陵
藿香²³⁹ 各二兩 麝香一分 蒿根
麻黃根 滑石 各五兩 粉英 六升

（37ウ）

（37オ）

（36ウ）

224 澤蘭二兩 神 澤一蘭兩 固（欠）
225 貞者 固（欠） 杏 糞
226 研 固（欠） 杏 岩 研 許 員者
227 鹽（鹽） 神 鹽 固（欠） 杏 岩 塩
228 場 固（欠） 鶴 揚 岩 揚 羣 漫
229 消 神 消 固（欠） 羣 硝
230 柳（柳） 神 柳 固（欠）
231 遂寸札將 固（欠） 杏 遂寸札 72
232 晨 固（欠） 鶴 農
233 罔 神 罔 固（欠） 杏 田
234 楊 神 楊 固（欠） 鶴 場
235 或 固（欠） 杏 岩 或 如本
236 淺 神 淺 固（欠）
237 棗 固（欠） 岩 棗
238 頭書「割」玉抄云子臥反去物芒角也析
傷也廣韻云技也」有り
固（欠） 杏 岩 羣 無し

燒香方

蕉陸四分

蘇合二分

治銷也音也²⁴⁶
錯也也²⁴⁷
刻治如法湏蜜合和盛瓷埋地經旬出用之也²⁴⁸

印香法

新雕經驗藥方

沈香
五兩
細剉

檀香
四兩細剉
如基子

零陵香

二兩細制
焙乾

甘松香
二兩去唐²⁵⁰
土細剉²⁵¹

乳香纏
一兩頭
高

好麝香
一錢半

硝磺 一分

右件藥十四味並焙乾細搗羅為末於金漆子內盛却不得透氣更着帛袋盛之要使旋取常於暖處安存不得犯陰氣

生結香

香附子 一兩去黑皮 煉紅包看

龍腦
熟腦子亦得生²³²
腦子更強三錢半²³⁴

(38ウ)

(38才)

239
員
古
(欠)
杏
員
岩
貞

240 頭書「増玉抄云日甘半器名」有り

神
杏
岩
羣
無し
古
(欠)

241 软

古(欠)杏岩 次

242 包

神 包 古 (欠) 杏 岩 羣 包

243 褻

神、襄
古
(欠)
鶴
杏

244 包

5 古(欠)杏合岩 今合

245
[必]
(大)
[鳥]
本ノミ

46 音 [古] (欠) [鶴] 必

古音
杏
岩
羣
(欠)
鶴
青

247
利
否
泰
夬
賁

古
(欠)
鶴
刻
杏
刻、

羣 劑 音也

248 冶〔頭書〕
 (頭書「冶銷也」)
音也

錯也

神治（頭書「治銷也」）音也

古
(欠)
錯也

鶴 冶（頭書「冶音也」
消也

錯也

傳與沈香六斤薰陸二斤甲香七兩零藁香

代甘松

丁香四兩

(39才)

[illegible]

傳與沈香六斤薰陸二斤甲香七兩零藁香

刑部卿範兼卿奉勅抄集之也

裏面共梗合了

羣 上下卷裏書ともに下卷末に一括